

教育プログラム・コースの概要

大学名等	東京薬科大学大学院						
教育プログラム・コース名	ゲノム医療者養成コース						
対象者	薬学研究科薬学専攻博士課程臨床薬学コース大学院生						
修業年限（期間）	大学院コースは4年						
養成すべき人材像	①がんゲノム医療における基礎医学の知識を身につけ、トランスレーショナルリサーチの現場で基礎研究者と協働できる薬剤師 ②プレジジョンメディシンの実践において、ゲノム診断の結果を適切に解釈し治療に反映することのできる薬剤師（Molecular Tumor Board構成メンバー等）。 ③プレジジョンメディシンの実践において、患者・家族に対して適切な情報提供・共有をし、治療を継続できる薬剤師						
修了要件・履修方法	・（大学院）各自の専門領域必修科目および下記の追加必修項目を含めて、30単位以上を履修し、学位論文を提出の上、審査、最終試験に合格すること						
履修科目等	<必修科目>がん薬物療法の実習（連携大学医学部付属病院における見学実習）2単位を含む所属分野の必修26単位 <選択科目>薬学基礎、医薬品情報学、薬物治療学（がんの生物システム学、緩和医療概論、緩和医療実践、がん化学療法を含む）から4単位						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	本学大学院生のうち、6年生薬学部を卒業し薬剤師の免許を取得した学生は、臨床薬学コースに所属する。本プログラムにおける当該コースでは、これら臨床薬学コースの学生に、臨床に直結したがん薬物療法に関する研究テーマを与え、将来がん治療現場の最前線にて研究心を兼ね備えた臨床薬剤師として活躍できる素養を習得するよう教育する。特に、分子標的薬の治療ターゲットをコードする遺伝子の発現に基づくテーラーメイド療法に精通し、これらの情報を他の医療従事者と共有しながら、がん治療に携われる薬剤師の養成を目指す。さらに、分子標的薬の標的となる分子や遺伝子を持たないがんに対する治療戦略の中で、化学療法の個別化に係る分子やその遺伝子の発掘を研究レベルで遂行し、それを癌化学療法のテーラーメイド化に生かせる薬学研究者および薬剤師の養成も視野に、教育を施す。						
指導体制	本学大学院のがん化学療法分野を中心に、がん専門薬剤師の資格を有する教授を含めた当該分野の指導教員が指導を行う。また、連携大学である東京医科大学は本学姉妹校であり、同大学附属病院の10の診療科を中心に、本学大学院生を対象とした2～4週間の臨床見学実習を実施している。これらの診療科にてがん治療の実践を学び、もって専門薬剤師としての素養を学生に身に付けさせる。さらに、東京医科歯科大学で行われる、大学院生を対象としたがん治療の基礎から臨床までの講義を受講させ、がん治療に関する幅広い知識を修得させる。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	がん専門薬剤師						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院生	0	2	2	2	2	8
	計	0	2	2	2	2	8